

Newsletter

日本養護教諭養成大学協議会

Vol.40 2019.11.25

日本養護教諭養成大学協議会
ニューズレターVol. 40

会 長 荒木田美香子 (国際医療福祉大学)

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

協議会副会長挨拶	1
2019年度総会を終えて	2
総会報告	2
養成教育フォーラムの報告	3
養成教育セミナーの報告	4

情報交換会の報告	4
委員会活動報告	5
協議会活動報告	6
事務局からのお知らせ	6



副会長挨拶

副会長
高橋浩之
(千葉大学)

副会長としての2度目の寄稿となるので今回は私の専門領域にかかわる話をしたい。

本協議会にご参加の先生方の研究領域には様々なものがあると思う。養護教諭養成自体が専門である方も多くいらっしゃるだろうが、別な領域が専門であり、言うなれば養護教諭養成には研究としてではなく職務としてかかわっている方も多いであろう。私もその口で専門領域は健康教育学であり、もしかしたら保健体育科教員を養成する仕事に就いていたかもしれないし、公衆衛生領域など教員養成以外のセクションで働いていたかもしれない。そして、養護教諭養成にかかわる職を得て以来、一貫して考えていることは養護教諭養成を通して日本の健康教育をより良いものにしたいということである。

特に千葉大学に赴任してからは、多くのスタッフや充実した資源に恵まれ、様々な活動が可能となった。もちろん、健康教育関連の授業はそれ以前から工夫して行ってきたが、それだけでなく、卒業要件に「健康教育に関する科目」の欄を新たに作り「健康教育論」2単位を必修、それ以外に「保健科教育演習」「性教育」など4科目8単位のうち1科目2単位を選択必修にするなどのカリキュラム改革を行うことができた。これは中高の保健の免許状のためだけでなく、健康教育は養護教諭としての基礎的な職務であるという考え方に基づいている。本協議会

においても教育職員免許状をめぐる議論の中で健康教育が強調されている現状などを考えるといくらか時代を先取りできたかとも考える。

また、教員採用試験改革により多くの県などで試験科目に模擬授業が加わったのも私にとってはうれしいことである。それまで、養護教諭になる上で健康教育について学ぶことには大変意義があると私自身は考えていたが、いざ教員採用となると教職教養や看護学の知識が優先で健康教育は無視されていたからである。もちろん、教員採用試験における模擬授業は、健康教育に関する能力を評価するというより主として対児童生徒のコミュニケーション能力を見るために使われていることや一部の教育委員会に教諭と養護教諭の授業へのかかわり方に関する乱暴な解釈（養護教諭にはTTをさせればよい、など）があるにしてもである。

しかし、長年、養護教諭養成の中で健康教育にかかわってきて、達成感を得ているかというとそのような状況とはほど遠い。例えば、卒業間近の教職実践演習では、「養護教諭としての本務にゆとりができれば健康教育にもチャレンジしたい」などと学生に言われ、がっかりする。結局、学生は健康教育を養護教諭の副業のようになら認識していないのであろうか。また、地域の健康教育の研究指定校に伺い、その学校内研究組織に栄養教諭が入っているのに養護教諭が入っていない例などを見て愕然としたこともある。

現在の日本における健康教育の状況は必ずしも良くない。それを放っておいて良いのだろうか。私は養護教諭が必ず授業などをすべきとは考えないが、子どもたちが良い健康教育を受けられるように学校全体が努力しなくてはならないし、ましてや、養護教諭が不十分な健康教育を横目に「本務ではない」などと言うことは許せない。

残り少ない役員の期間を養護教諭養成における健康教育に関する学びを充実させることに貢献したいと考えている。

日本養護教諭養成大学協議会
2019年度総会・養成教育 フォーラム・
養成教育セミナーを終えて
会長 荒木田美香子(国際医療福祉大学)

2019年度 総会報告

台風15号、台風19号で被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げます。本会に置きましても、前日の養成教育セミナーでは遠方の方々は参加できているが、千葉県、茨城県の方のほうに参加できないという状況になりました。また、総会当日には全国養護教諭連絡協議会会長の浅野明美先生には大変な中、会場に来ていただく努力をしていただきましたが、交通手段が得られないという事態になりました。台風の影響の中、開催を強行させていただきましたが、おかげさまで、何とか終わることができました。ご参加いただきました皆様、ご尽力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

さて、総会後の養成フォーラムでは「養成大学として育成指標をどのように活用するか」というテーマで、文部科学省、埼玉県、横浜市といろいろな立場でお話をいただきました。手前みそではありますが、当日のご講演などの内容から、養護教諭の成長が養成教育と採用、現任教育という一連の中にあり、互いに切磋琢磨し、協働しながら可能になるものであるということが深く理解できる内容であり、良い企画だったと感じた次第です。

各委員会の委員長も積極的な活動をしてくれており、また、経理上の厳しい状況も一応解決し、役員会が良いチームワークで進められていることも改めて実感し、感謝の念でいっぱいです。

さて、2019年4月に中央教育審議会に「新しい時代の初等中教育在り方について」という諮問が出されています。その諮問の内容は多岐にわたっていますが、「質の高い教師を確保し、資質向上を図るための養成・免許・採用・研修・勤務環境・人事計画等の在り方」については、本協議会も注視していかなければならないところです。また、「特別な配慮を要する児童生徒等への指導など、特定の課題に関する教師の専門性向上のための仕組みの構築」「いじめの重大事態、虐待事案等に適切に対応するための方策」「チーム学校の実現等に向けた教職員や専門的人材の配置、教師を支援し教育の質を高める ICT 環境や先端技術の活用を含む条件整備の在り方」などのポイントはいずれも喫緊の課題といえるもので、養護教諭養成教育に携わっている者の研究テーマでもあり、養成教育においても反映させていかなければならない内容といえます。本協議会版の「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」は今年度に来上を目指していますが、いずれ、社会の変化やこれらの答申に合わせて定期的に見直していくことが必要であり、それが養成教育の質を保証するための継続的な活動になるんだということを、できる前から考えています。

1. 開会：遠藤副会長より、開会が宣言された。
(134大学中、出席103、委任状23)
2. 会長挨拶：荒木田会長より活動予定の説明と、9月9日未明に関東を直撃した台風15号の影響による交通機関の乱れがあったにもかかわらず、多くの会員に参加いただけたことに感謝を述べた。本協議会の会員校は、多様な学問背景・体系の大学で構成されており、今後も会員校の意見を反映させながら、養護教諭の要請教育の質の担保を目的に充実した活動をすすめる挨拶があった。
3. 議長選出：平井美幸（大阪教育大学）、丹佳子（山口県立大学）が選出された。

4. 議事

- 議題1 2018年度事業報告 荒木田会長より報告され承認された。
- 議題2 2018年度決算報告 下村理事より報告され承認された。
- 議題3 2018年度監査報告 砂村監査委員より報告され、賛成多数により承認された。
- 議題4 2019年度事業（中間）報告 荒木田会長より報告され承認された。
- 議題5 2019年度修正予算（案） 下村理事より提案され、賛成101、委任状23、反対0、未投票2で承認された。
- 議題6 2020年度事業計画（案） 荒木田会長より提案され承認された。
- 議題7 2020年度予算（案） 下村理事より提案され、賛成101、委任状23、反対0、未投票2で承認された。
- 議題8 会則の一部改正（案） 荒木田会長より広報・渉外委員会を会則に明記することについて提案され、賛成99、委任状23、反対1、未投票3で承認された。その役割の内容について質問があり、荒木田会長より細則に委員会の役割を明示することを回答した。

(FD検討委員会)



2019年度 養成教育フォーラムの報告

基調講演1「養護教諭の育成指標について」

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課
健康教育調査官 松崎 美枝 氏

平成27年12月に、教員の資質向上、チーム学校、地域と学校の連携・協働に関する3つの答申が出され、平成28年1月「次世代の学校・地域」創生プランが策定された。以上を受けて教育公務員特例法、教育職員免許法、(独)教員研修センター法、学校教育法、地方教育行政法等の一部が改正され、平成29年4月1日より施行されている。

特に「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について(答申)」では、その背景にある社会環境の急激な変化への対応として、教育課程や教育方法の改革やチーム学校としての行動や研修が挙げられている。一方で、教職員の大量の就職・採用で生じた経験年数の不均衡や現場での多忙によるさまざまな弊害も指摘されており、これらの課題解決に向けて、大学等と教育委員会の連携のための制度等の枠組みが必要となっている。具体的な方策として、学び続ける教員を支援するキャリアシステム構築のための体制づくりや大学等との協働による全国レベルの教員育成指標や研修計画の整備が挙げられる。また、養護教諭の資質向上に向けて、文部科学省では平成29年度より学校保健総合支援事業(養護教諭育成支援事業)として、埼玉県、長野県、川崎市、秋田県教育委員会にそれぞれ課題に取り組んでいただいている。

その他、学校保健推進事業としてスクールヘルスリーダー派遣事業(費用は国1/3、自治体2/3)により経験豊富な退職養護教諭を派遣し、養護教諭未配置校や経験の浅い養護教諭の支援を実施している自治体もある。

以上、養護教諭の育成指標にかかわる内容や養護教諭を対象に実施している事業についてご講演をいただきました。



[育成指標の取り組み報告の様子]

「育成指標の取り組み報告1」 埼玉県教育局県立学校部保健体育課 指導主事 芦川 恵美 氏

埼玉県では養護教諭の専門性を重視した指標として資質項目を12項設定している(埼玉県教育局HP参照)文部科学省の委託事業により育成指標具現化のためのチェックリストを作成し、その活用と学校長と養護教諭への調査を実施した。現在、年次研修での活用も展開している。さらに養成大学との連携として学生の演習に育成指標シートの活用もすすめている。

女子栄養大学教授 遠藤 伸子 氏

平成29年に埼玉県の育成指標が作成され協議会が設置された。本学ではその育成指標を養護実習事前指導で、身につけたい能力と自己課題ならびに目標の明確化として実習計画と事後の自己評価にいかせるように取り組んでおり、資質項目ごとの分析も実施している。今後は、学位評価基準やディプロマポリシーの位置づけ等、大学として整合性を図ることと、養成大学で習得すべき課題と自己評価への活用が今後の課題と考えている。

「育成指標の取り組み報告2」 横浜市教育委員会教職員人事部教職員育成課 主任指導主事 大平 はな 氏

横浜市では、教員の養成・採用・研修を一体的にすすめることを柱とし、平成25年度大学連携協議会を設置し、54の大学と協定を締結している。平成27年には人材育成指標が作成され研修体系を組んでいる。

養護教諭の育成・教育実習における受け入れ学校にむけた支援として、学生を指導するガイドブック(教育実習サポートガイド)とイメージ動画(youtube掲載)を作成し、実習生との向き合い方を発信している。実習の評価は、協定を締結した大学と共通の評価表を用い、養成・育成が一体となって進めている。学生のモチベーションが高まることも重要で、実習後、ボランティア等主体的に活動する仕組みづくりにも取り組んでいる。

ご報告の後、フロアの皆様と活発なディスカッションが行われました。なお、予定しておりました全国養護教諭連絡協議会会長 浅野 明美氏のご講演は台風15号の影響により中止となりました。

(文責 FD検討委員会)

2019年度 養成教育セミナーの報告

「教育課程（カリキュラム）検討委員会」

「養成制度（法制度）検討委員会」

委員長大川尚子（関西福祉科学大学）

副委員長下村淳子（愛知学院大学）

今年度の養成教育セミナーは、昨年度に引き続き、メインテーマを「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」の構築に向けてⅡとして取り組みました。

教育課程（カリキュラム）・養成制度（法制度）検討委員会では、一昨年度、養護教諭養成大学の養護専門科目の教育課程の現状を把握し、今後の養成カリキュラムの充実と免許法改正に向けた基礎資料とするため、各大学の養成カリキュラムの実態調査を実施しました。

2015～2017年度の3年間、検討委員会では、養護教諭が卒業時に修得する力を明確に示すうえで、科目名を細かく指定する方向で議論してきましたが、文部科学省は大きくくり化の方向に流れています。「養護教諭の実践」に必要な力が見えるように根拠をあげて示しながら、すべての会員校の行う教育の質を高めることが重要であると考えました。

今期（2018～2020年度）の検討委員会では、これまでの教育課程（カリキュラム）検討委員会の成果と前期の調査結果を元に、各大学の養成教育へ活かすことのできる本協議会独自の「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」を作成しました。

今年度のセミナーでは、その日本養護教諭養成大学協議会作成「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020」について説明し、そのコアカリキュラム案のⅠ群「養護および養護教諭に関する基礎的理解」、Ⅱ群「子どもと子どもを取り巻く環境の理解」、Ⅲ群「養護実践の基礎的内容と方法の理解」、Ⅳ群「養護実践の計画と展開方法の理解」の到達目標の内容について、会員校に実施した「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020（案）」に関する調査の結果をもとに検討するグループワークを実施しました。

会員の皆様からの本セミナーへのアンケートから以下のような結果が得られました（48名）。本セミナーについて、「かなりよかった」44%、「よかった」46%と回答していました。

<全体会について>

- ・コアカリの趣旨、目標について分かりやすく説明していただきよかった。
- ・情報量が多くてまだ整理できていない部分が多かったが、たいへん充実した時間だった。
- ・もう一度、教職課程のコアカリキュラムを作成の根拠を確認していきたいと思った。

<分科会について>

- ・趣旨説明が詳しくあったので話し合いやすかった。
- また、まとめでもそれぞれの分科会で話し合われた内容が把握できてよかった。

- ・コアカリなのだから、統一性のある日本語でシンプルなものが多い。色々な解釈ができる用語、文章はよくない。「思い」を専門性として書く力を他の業界の人が見ても評価してもらえるような内容で出したい。
- ・分科会ではⅠ～Ⅳ群の群別に検討したので、その群だけしかみえずに意見があげられたものが多かったように思う。

今後、本セミナーの成果を生かし、各大学の養成教育に生かすことができる本協議会独自の「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020」の構築に向けてさらに取り組んでいきたいと考えています。台風の中、多くの会員の皆様にご参加いただきありがとうございました。



情報交換会の報告

関東に台風が直撃する中での情報交換会は予定通り開催できました。2019年9月9日は総会の前日ですが、13時から養成教育セミナーと17時30分から19時30分まで情報交換会が開催されました。関東地区に台風が直撃するという日で、参加者の交通の便など乱れ始め、無事、開催できるのだろうか心配していました。その様な中を参加者が集い養成セミナーでは熱心に養護教諭養成のコア・カリキュラム検討会がなされました。養成教育セミナーでコア・カリキュラムについてのグループワークでの熱心な討議から、さらに情報を交換したいという人もあり、予定数を超える人数が確保できました。

会の進行は荒木田美香子会長の挨拶、大川尚子コア・カリ検討委員会代表のあいさつの後、新規入会校の紹介がありました。新規加入校3人の先生たちは教員としてのベテランであり、大学のユニークな取り組みなど話されました。その後の個人情報交換では、免許法のこと、コアカリのこと、免許取得する学生のこと、教員数のこと、看護実習や養護実習のこと、学会発表のこと、博士後期課程の進学など語り合っておられました。各大学で養護教諭の養成に関わる教員数は少ないので、年1回、北海道から沖縄までの同じ立場にある者同士の交流ができる時を持つことの意義は大きいと思いました。

津島ひろ江

各種委員会報告

「教育課程（カリキュラム）検討委員会」

「養成制度（法制度）検討委員会」

活動計画

委員長 大川尚子（京都女子大学）

教育課程（カリキュラム）・養成制度（法制度）検討委員会では、これまでの教育課程（カリキュラム）検討委員会の成果と前期の調査結果を生かして、各大学の養成教育へ生かすことのできる本協議会独自の「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」を作成しました。

今年度の養成教育セミナーでは、日本養護教諭養成大学協議会が作成した「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020（案1）」について説明し、そのコアカリキュラムをもとにグループワークを実施しました。

セミナーで皆様にいただいたご意見を集約し、さらに検討委員会で検討し、再度「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020（案2）」を作成したいと考えています。

その案を、再度、会員の皆様にご提案して、下記の通り、12月15日（日）にご意見をお聞きする場を設け、今年度末には最終報告ができるように準備を進めています。多くのご参加をお待ちしています。

今後、「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020」の周知、情報の拡散を狙って、学会等で発表していきます。

「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020（案2）」に関するワークショップのご案内

日時：2019年12月15日（日）

13時30分～16時

場所：国際医療福祉大学東京赤坂キャンパス

<https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/access/>



「FD検討委員会」 活動計画

委員長 松枝睦美（岡山大学）

副委員長 鎌塚優子（静岡大学）

FD検討委員会では、養護教諭養成における教職実践演習の計画とその評価方法モデルの提案について活動をすすめています。

今年度は、昨年度のアナケート調査結果をもとに会員校のニーズをふまえて以下を計画しています。

活動計画1

①「学校管理下における危機管理体制」に関する授業計画案作成

②「地域連携」に関する授業計画案作成

③ ①②の計画の評価法の立案

活動計画2

④ 作成した授業計画の評価の観点、評価法の妥当性の確認（専門家の助言、意見交換の実施）

活動計画3

⑤ ①②③の公開と会員校の意見集約調査

活動計画4

⑥ セミナーにおけるツールの立案、会員校との意見交換等の実施準備

以上、今年度すすめていく予定です。

「広報・渉外検討委員会」 活動報告

委員 竹鼻ゆかり（東京学芸大学）

池添 志乃（高知県立大学）

広報・渉外検討委員会では、ホームページの更新とニューズレターvol139・40を発刊しました。ニューズレターでは、新規加盟校7校からメッセージをいただきました。ホームページでは、最新情報として2019年度総会、養成教育フォーラムの開催報告を掲載しています。また各都道府県の教員の育成指標の掲載一覧も掲載しておりますので、ぜひ参考になさってください。

なお本協議会のシンボルマークについては、ロゴをつけて、ホームページ上でダウンロードできるようにしています。ご活用ください。



協議会活動報告

○【2019年度 第2回役員会】

日時：2019年7月14日（日）11：00-14：30

場所：高知工科大学 東京サテライト

出席：荒木田、池添、遠藤、大川、鎌塚、下村、
高橋、竹鼻、津島、松枝（50音順・敬称略）

司会：荒木田 記録：竹中

主な審議・報告事項

- 1) 養護教諭養成課程コアカリキュラムに関する調査について
- 2) 日本養護教諭養成大学協議会会則改正について
- 3) 2019年度総会・養成教育フォーラム・養成教育セミナーの役割分担・時程
- 4) 会計について（2018年決算報告、2019年度修正予算（案））
- 5) 次期理事選挙について

【2019年度 第3回役員会】

日時：2019年9月9日（月）11：30-12：10

場所：きゅりあん4階 第一特別講習室

出席：荒木田、池添、遠藤、大川、鎌塚、下村、
津島、松枝（50音順・敬称略）

司会：荒木田 記録：竹中

主な審議・報告事項

- 1) 2019年養成教育セミナー、総会、養成教育フォーラム全体の進行について
- 2) 養成セミナーの準備と運営について

【2019年度 第4回役員会】

日時：2019年9月10日（火）16：10-16：50

場所：きゅりあん4階 第一特別講習室

出席：荒木田、池添、遠藤、大川、鎌塚、下村、
高橋、竹鼻、津島、松枝（50音順・敬称略）

司会：荒木田 記録：竹中

主な審議・報告事項

- 1) 養護教諭関係団体連絡会からの依頼についての検討
- 2) 総会での質問事項、細則の作成について
- 3) 養成教育セミナー・総会・養成教育フォーラムの運営や方法の振り返り

（庶務：鎌塚優子）



事務局からのお知らせ

台風15号と総会が重なっておりました時には、会員校の皆さまより多くのお問い合わせをいただきました。休日が重なっていたこともあり、HPやメールなどでの一斉情報提供が迅速に出来ず、個々への対応となってしまうことを、心よりお詫びいたします。

2019年度に入り、新見公立大学、森ノ宮医療大学、帝京大学、武蔵野大学の4つの新規会員校を迎え、136会員校（2019年8月末）となっています。

会員校評議員の皆様には、随時、メールやHPでお知らせを出しておりますが、引き続き、ご協力賜りますようお願いいたします。ご要望、お問い合わせは下記のメールをお願いいたします。

会計より

9月10日の総会では、2018年度決算を報告させていただきました。2017年度より会費を3万円とさせていただいたことで2,387,408円もの金額を2019年度に繰り越すことができました。会員校の皆様のおかげと感謝しています。

会費を値上げさせていただいたことで、ホームページの管理を業者委託できるようにし、掲載できる情報量もふやすことができました。また、9月に開催した養成教育セミナーの資料代も無料とし、使用する会場を増やすなどして少人数のワークショップを開催しやすくしました。このように、できる限り会員の皆様に還元できるように努めています。

総会で承認された2018年度決算報告・2019年度補正予算・2020年度予算案はホームページに掲載されていますのでご確認ください。

（会計 下村淳子）

編集後記

今年の養成フォーラム、養成教育セミナーでは多くの先生方のご参加をいただき、共に教育のあり方を考え、学びを深める貴重な機会となりました。ありがとうございました。今後も様々な情報発信をとおしてネットワークをより深めていきたいと思っております。

今年度は5月から10月に至るまで複数地域で集中豪雨や土砂災害が起こっております。被災地の皆様には、一日も早い復旧や健康回復がなされますことをお祈り申し上げます。

（広報・渉外 池添志乃・竹鼻ゆかり）

【事務局】国際医療福祉大学
TEL&FAX：（事務局）
Mail：yogojimu@j-yogo.jp